

# 令和5年度 高畠町ひきこもり等実態調査

## —— 調査結果報告書 ——

令和6年3月

高畠町福祉こども課



## 目 次

|                              |    |
|------------------------------|----|
| 1. はじめに                      | 1  |
| 2. 本調査におけるひきこもりの定義           | 1  |
| 3. 調査の概要                     | 1  |
| 4. 調査結果                      |    |
| 1) ひきこもりの状態にあてはまる人がいる世帯の数と割合 | 3  |
| 2) ひきこもり者数とその性別年代別の状況        | 4  |
| 3) 家族との交流と外出の状況              | 2  |
| 4) ひきこもりの状態になった期間            | 5  |
| 5) ひきこもりの状態になったきっかけ          | 5  |
| 6) 本人の不安や危機感                 | 6  |
| 7) 家族以外への相談経験と相談先            | 7  |
| 8-1) 今後相談したい機関               | 8  |
| 8-2) 相談したくない理由               | 9  |
| 9) 今後望む支援                    | 9  |
| 10) 町や相談機関からの連絡の可否           | 10 |
| 5. まとめ                       | 11 |
| 6. おわりに                      | 12 |
| 7. 調査票                       | 13 |

## 1. はじめに

近年、ひきこもりの長期化、高齢化、8050 問題が進む中、ひきこもりの状態にある人は、15 歳から 64 歳の生産年齢人口において推計 146 万人であり、50 人に 1 人がひきこもりの状態であることがわかった。出典：2022 年度こども・若者の意識と生活に関する調査（以下「令和 4 年度内閣府調査」）。

本町では、ひきこもり状態にある人の現状と支援ニーズ把握を目的に令和 2 年度ひきこもり等実態調査（以下「初回調査」）を実施しており、初回調査において 70 世帯 77 人のひきこもり実数の把握と 22 世帯からの個人情報提供を受けて支援を実施してきている。また、調査結果から、ひきこもり対策の重点を「男性」「長期化・遷延化の防止」「生活費・健康への不安解消」とし、これまで就労や体験の場づくり、地域の居場所づくりなど、社会資源の創出と地域ネットワーク形成を進めてきている。

このように、初回調査以降、これまで把握できていなかったひきこもり当事者に何らかのつながりを持つことができたことから、この取組みをさらに進め、まだ声をあげていない人への支援体制の強化を図るため、令和 5 年度に 2 回目の調査（以下「本調査」）を行ったものである。

## 2. 本調査におけるひきこもりの定義

「仕事や学校に行かず、家族以外の人との交流をほとんどせずに、6 か月以上続けて家又は部屋等にひきこもっている状態」（厚生労働省「ひきこもりガイドライン」2010 年準用）

※買い物や趣味など、他者と関わらない形で外出している場合を含む

## 3. 調査の概要

### （1）調査名

令和 5 年度ひきこもりに関するアンケート調査

### （2）調査基準日

令和 5 年 4 月 2 日

### （3）調査対象者

S34. 4. 2～H20. 4. 1 生まれの人がいる世帯

※満 15 歳～63 歳（4 月 2 日生まれ者は 64 歳）

### （4）対象世帯数及び人数

5,594 世帯      11,470 人

### （5）調査方法

調査対象世帯の世帯主あてに調査用紙を郵送し、次により回答を求めた

・返信用封筒による回答

・インターネットによる回答（町 H P または Q R コードからやまがた e 申請アクセス）

### （6）調査期間

令和 5 年 9 月 20 日～10 月 10 日

(7) 回答数及び回収率

- ・ 回収数

2,904 通 (内訳 : 郵送回答 2,339 通、インターネット回答 565 通)

- ・ 回収率

51.9%

#### 4. 調査結果【ひきこもりの状態にあてはまる人が「いる」と回答した 64 世帯の集計】

##### 1) ひきこもりの状態にあてはまる人がいる世帯の数と割合

「ひきこもりの状態にある人がいる」と回答したのは 64 世帯であり、回収数の 2.2%であった。そのうち、本人回答は 12 件（18.8%）である。

【図表 1 ひきこもり者がいる世帯数と割合】

|           | 世帯数   | 割合    |
|-----------|-------|-------|
| 基数（n）     | 2,904 | 100.0 |
| いる        | 64    | 2.2   |
| いない       | 2,840 | 97.8  |
| いるが6カ月未満※ | 7     | 0.2   |
| 無効・無回答    | 0     | 0.0   |

【図表 2 回答者から見た続柄】

|         | 世帯数 | 割合   |
|---------|-----|------|
| 基数（n）   | 64  | 100  |
| 本人      | 12  | 18.8 |
| 配偶者     | 3   | 4.6  |
| 父母      | 3   | 4.6  |
| 子ども     | 37  | 57.8 |
| 祖父母     | 1   | 1.6  |
| 兄弟姉妹    | 8   | 12.5 |
| 子どもの配偶者 | 1   | 1.6  |
| その他     | 3   | 4.6  |

##### 2) ひきこもり者数とその性別年代別の状況

ひきこもりの状態にある人は 68 人であり、世帯に 2 人と回答があったのは 4 世帯であった。

最も多い年代は 40 歳代、次いで 50 歳以上であり、初回調査と順番が入れ替わった。

30 歳代以下は 32 人（47.0%）であり、約 2 人に 1 人と多く、33.8%だった初回調査から割合は増えている。10 歳代は 9 人（13.2%）と、初回調査の 1 人（1.3%）から増えている。

性別をみると、男性が多い。女性は初回調査より増えており、特に 20 歳代以下女性が増加している。

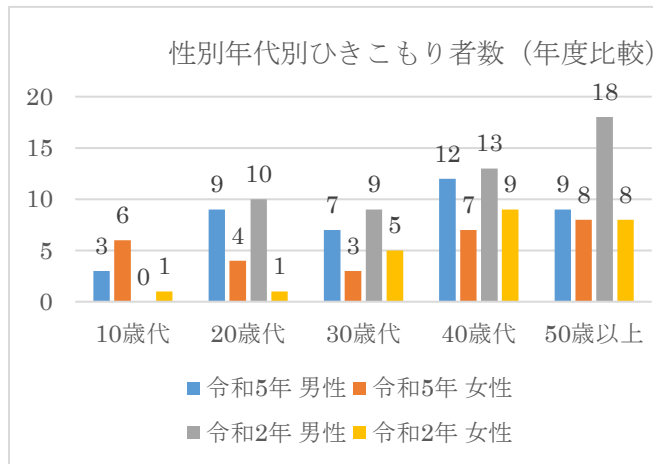
【図表 3 代別内訳（本調査）】 (人) (%)

|        | 男性 | 女性 | 合計 | 割合    |
|--------|----|----|----|-------|
| 基数（n）  | 40 | 28 | 68 | 100.0 |
| 10 歳代  | 3  | 6  | 9  | 13.2  |
| 20 歳代  | 9  | 4  | 13 | 19.1  |
| 30 歳代  | 7  | 3  | 10 | 14.7  |
| 40 歳代  | 12 | 7  | 19 | 28.0  |
| 50 歳以上 | 9  | 8  | 17 | 25.0  |

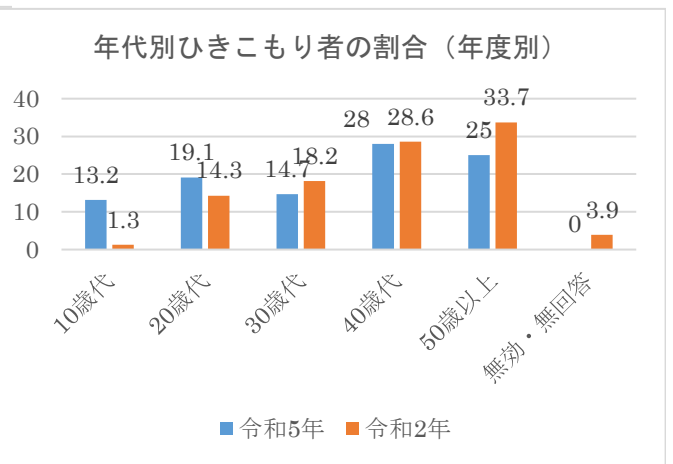
【図表 4 年代別内訳（初回調査）】 (人) (%)

|         | 男性 | 女性 | 人数 | 割合   |
|---------|----|----|----|------|
| 基数（n）   | 50 | 24 | 77 | 100  |
| 10 歳代   | 0  | 1  | 1  | 1.3  |
| 20 歳代   | 10 | 1  | 11 | 14.3 |
| 30 歳代   | 9  | 5  | 14 | 18.2 |
| 40 歳代   | 13 | 9  | 22 | 28.6 |
| 50 歳代以上 | 18 | 8  | 26 | 33.7 |
| 無効・無回答  |    |    |    | 3.9  |

【図表 5 性別年代別ひきこもり者数（年度比較）】  
(人)



【図表 6 年代別ひきこもり者の割合（年度比較）】  
(%)



### 3) 家族との交流と外出の状況

本人の交流の状況は「家族以外との交流がない」が最も多く約4割である。次いで「人と会うことはほとんどないが、SNS、インターネットで人と交流あり」「家族ともほとんど会話がな

い」が約2割である。

外出状況は「ほとんど外出しない」が最も多く22.1%、約5人に1人である。

何らかの外出をしている人は77.9%、一人で外出が可能な傾向にある人は50.0%であった。

【図表 7 家族との交流状況】  
(人) (%)

|                                   | 人数 | 割合   |
|-----------------------------------|----|------|
| 基数 (n)                            | 68 | 100  |
| 家族ともほとんど会話がな                      | 13 | 19.1 |
| 家族と会話はするが、家族以外との交流がない             | 27 | 39.7 |
| 人と会う事はほとんどないがSNS、インターネットで人と交流している | 14 | 20.6 |
| その他 ( )                           | 9  | 13.2 |
| 無記入                               | 5  | 7.4  |

【図表 8 外出状況】  
(人) (%)

|                                   | 人数 | 割合   |
|-----------------------------------|----|------|
| 基数 (n)                            | 68 | 100  |
| ほとんど外出しない                         | 15 | 22.1 |
| 家族と外出することはある（一人では出られない）           | 19 | 27.9 |
| 一人で買い物に出かけることはある（日常生活に必要なことのみ）    | 21 | 30.9 |
| 一人で趣味や遊ぶために外出することはある（社会的な関わりを持てる） | 13 | 19.1 |

#### 4) ひきこもりの状態になった期間

ひきこもりの状態になってからの期間が一番多いのは「7年以上」で38.2%であり、長期化している状況がわかる。

一方、5年未満者は人数、割合ともに初回調査より増えており、早期からの支援の充実を図る必要がある。

【図表9 ひきこもりの期間（本調査）】

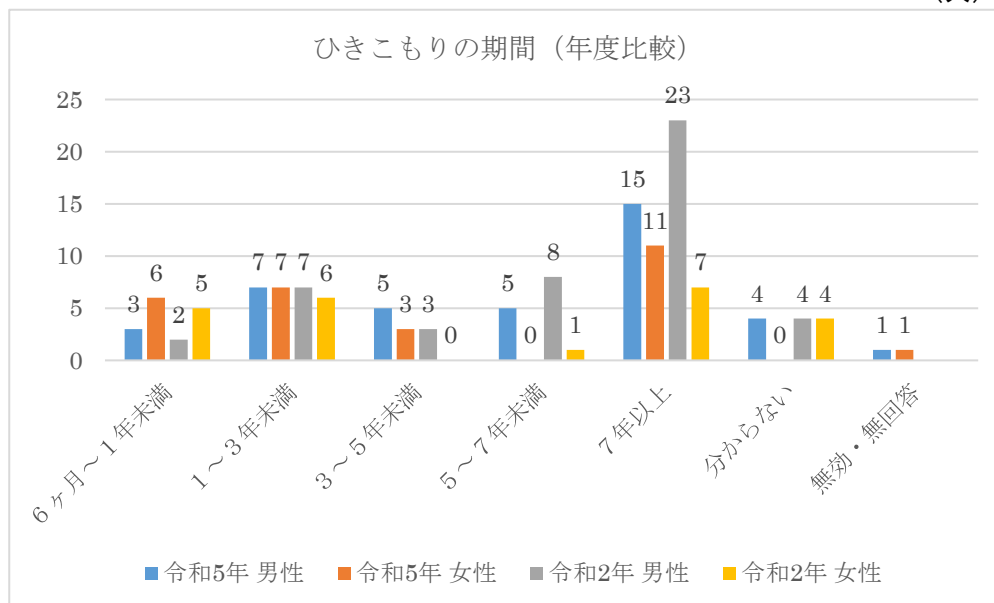
|          | (人) |    | (%)  |
|----------|-----|----|------|
|          | 男性  | 女性 | 割合   |
| 基数 (n)   | 41  | 27 | 100  |
| 6か月～1年未満 | 3   | 6  | 13.2 |
| 1～3年未満   | 7   | 7  | 20.6 |
| 3～5年未満   | 5   | 3  | 11.8 |
| 5～7年未満   | 5   | 0  | 7.4  |
| 7年以上     | 15  | 11 | 38.2 |
| 分からない    | 4   | 0  | 5.9  |
| 無効・無回答   | 1   | 1  | 2.9  |

【図表10 ひきこもりの期間（初回調査）】

|          | (人) |    | (%)  |
|----------|-----|----|------|
|          | 男性  | 女性 | 割合   |
| 基数 (n)   | 47  | 23 | 100  |
| 6か月～1年未満 | 2   | 5  | 9.1  |
| 1～3年未満   | 7   | 6  | 16.9 |
| 3～5年未満   | 3   | 0  | 3.9  |
| 5～7年未満   | 8   | 1  | 11.7 |
| 7年以上     | 23  | 7  | 39.0 |
| 分からない    | 4   | 4  | 10.3 |
| 無効・無回答   | 7   |    | 9.1  |

【図表11 ひきこもりの期間（年度比較）】

(人)



#### 5) ひきこもりの状態になったきっかけ

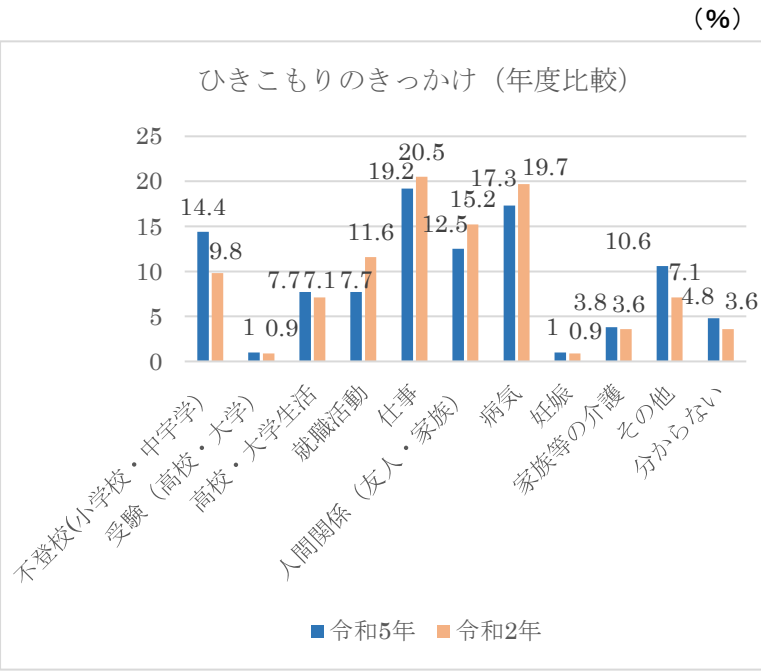
ひきこもりになったきっかけとして「不登校」が初回調査より4.6ポイント増加した。

最も多かったのは「仕事」(19.2%)であり、「病気」(17.3%)、「不登校」(14.4%)、「人間関係」(12.5%)と続く。「不登校」と「人間関係」の順番は初回調査と入れ替わっている。



【図表 12、13 ひきこもりのきっかけ】（複数回答）

|              | (件) | (%)   |
|--------------|-----|-------|
| 基数（回答世帯）     | 68  |       |
| 不登校（小学校・中学校） | 15  | 14.4  |
| 受験（高校・大学）    | 1   | 1.0   |
| 高校・大学生生活     | 8   | 7.7   |
| 就職活動         | 8   | 7.7   |
| 仕事           | 20  | 19.2  |
| 人間関係（友人・家族）  | 13  | 12.5  |
| 病気           | 18  | 17.3  |
| 妊娠           | 1   | 1.0   |
| 家族等の介護       | 4   | 3.8   |
| その他          | 11  | 10.6  |
| わからない        | 5   | 4.8   |
| 総計           | 104 | 100.0 |

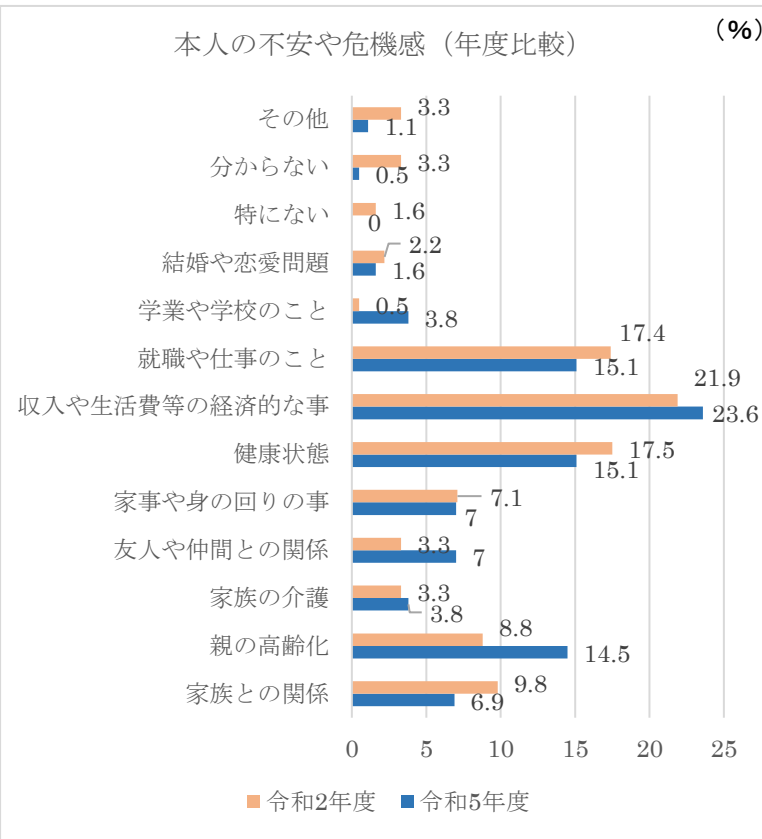


6）本人の不安や危機感 （複数回答）

本人の不安や危機感で最も多いのは「収入や生活費など経済的なこと」が23.6%であり、「就職や仕事のこと」「健康状態」が15.1%、「親の高齢化」が14.5%と続く。本人にとって就労に係る不安が大きいことがわった（38.7%）。

【図表 14、15 本人の不安や危機感】

|                | 件数  | 割合   |
|----------------|-----|------|
| 基数             | 186 | 100  |
| 家族との関係         | 13  | 6.9  |
| 親の高齢化          | 27  | 14.5 |
| 家族の介護          | 7   | 3.8  |
| 友人や仲間との関係      | 13  | 7.0  |
| 家事や身の回りのこと     | 13  | 7.0  |
| 健康状態           | 28  | 15.1 |
| 収入や生活費など経済的なこと | 44  | 23.6 |
| 就職や仕事のこと       | 28  | 15.1 |
| 学業や学校のこと       | 7   | 3.8  |
| 結婚や恋愛問題        | 3   | 1.6  |
| 特にない           | 0   | 0    |
| 分からない          | 1   | 0.5  |
| その他            | 2   | 1.1  |



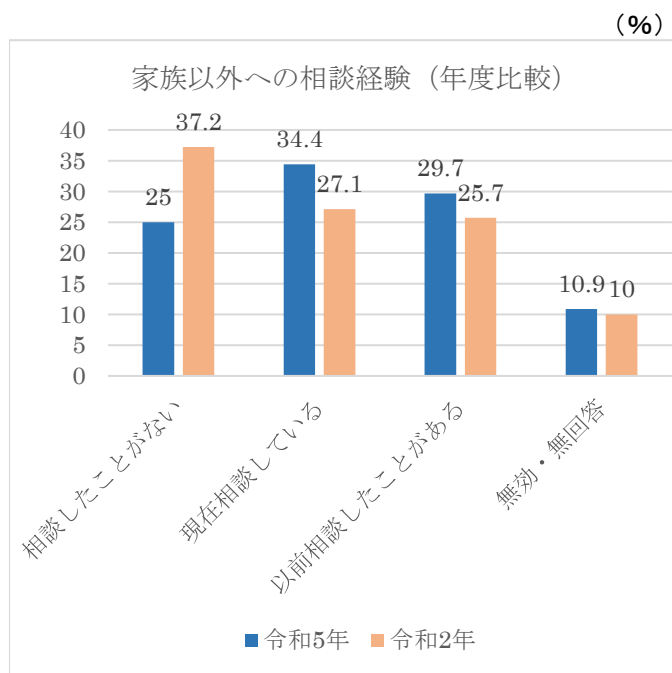
## 7) 家族以外への相談経験と相談先

「家族以外に相談したことがない」は16世帯（25.0%）であり、4世帯に1世帯が現在相談機関等につながっていない。初回調査と比較するとその割合は低下しており、相談経験のある世帯は増加している。

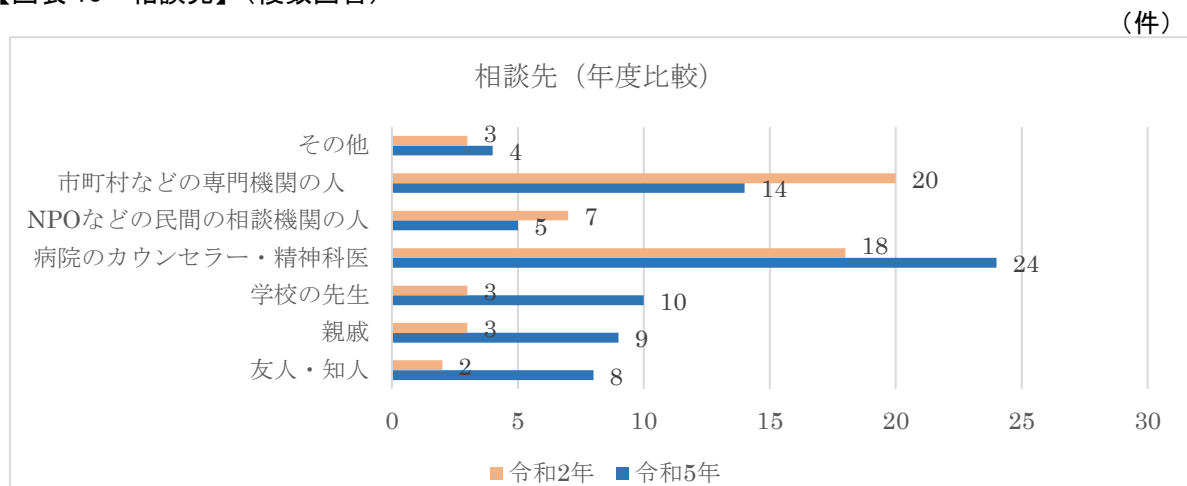
相談経験があると回答した41人の相談先は「病院のカウンセラー、精神科医」が最も多い。

【図表 16、17 家族以外への相談経験】

|             | 世帯 | 割合   |
|-------------|----|------|
| 基数（n）       | 64 | 100  |
| 相談したことがない   | 16 | 25.0 |
| 現在相談している    | 22 | 34.4 |
| 以前相談したことがある | 19 | 29.7 |
| 無効・無回答      | 7  | 10.9 |



【図表 18 相談先】（複数回答）



## 8－1）今後相談したい機関 （複数回答）

今後相談したい機関としては「親身に聞いてくれる」17.8%、「無料相談」14.5%、「精神科医」「心理学の専門家」が11.2%であり、初回調査と同様である。

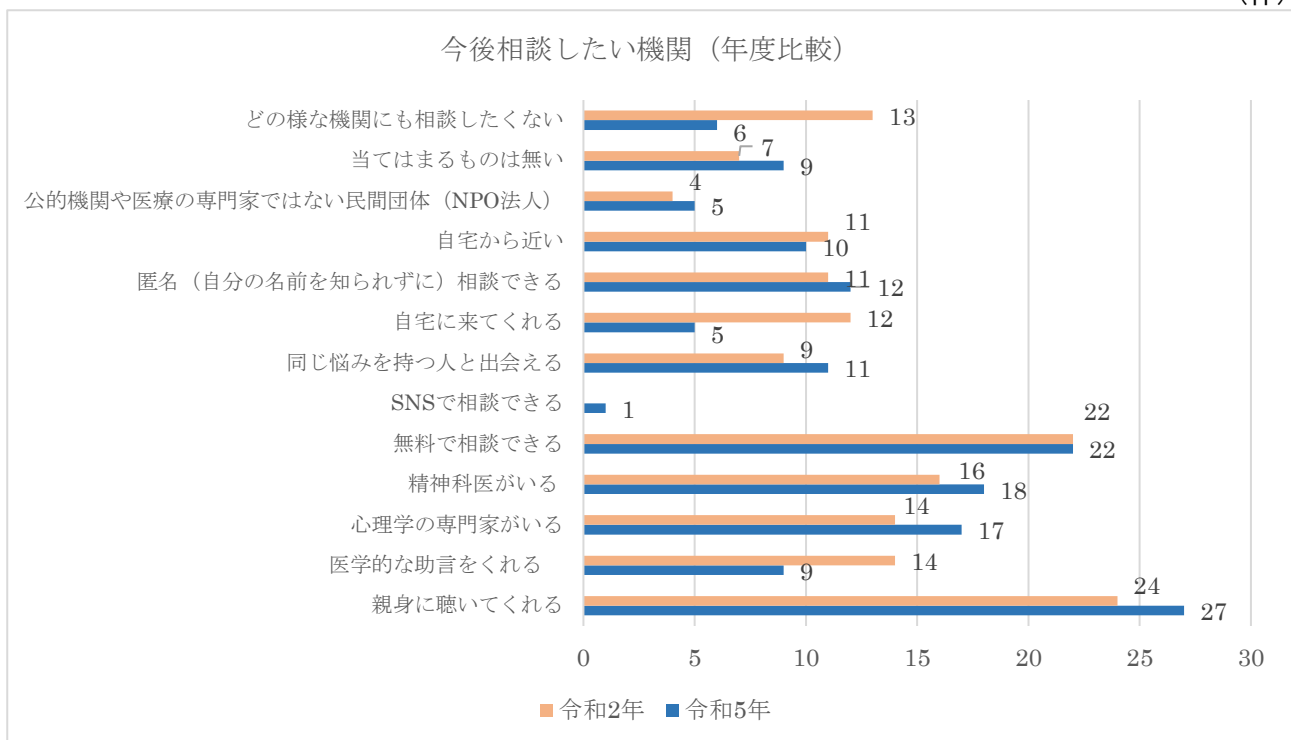
「どのような機関にも相談したくない」は6世帯、3.9%であり、初回調査と比較すると17.4ポイント低下している。

【図表 19 今後相談したい機関】

|                             | (件) | (%)  |
|-----------------------------|-----|------|
|                             | 件数  | 割合   |
| 基数                          | 152 | 100  |
| 親身に聴いてくれる                   | 27  | 17.8 |
| 医学的な助言をくれる                  | 9   | 5.9  |
| 心理学の専門家がいる                  | 17  | 11.2 |
| 精神科医がいる                     | 18  | 11.8 |
| 無料で相談できる                    | 22  | 14.5 |
| SNSで相談できる                   | 1   | 0.7  |
| 同じ悩みを持つ人と出会える               | 11  | 7.2  |
| 自宅に来てくれる                    | 5   | 3.3  |
| 匿名で（自分の名前を知られずに）相談できる       | 12  | 7.9  |
| 自宅から近い                      | 10  | 6.6  |
| 公的機関や医療の専門家ではない民間団体（NPO など） | 5   | 3.3  |
| あてはまるものはない                  | 9   | 5.9  |
| どのような機関にも相談したくない            | 6   | 3.9  |

【図表 20 今後相談したい機関（年度比較）】

(件)

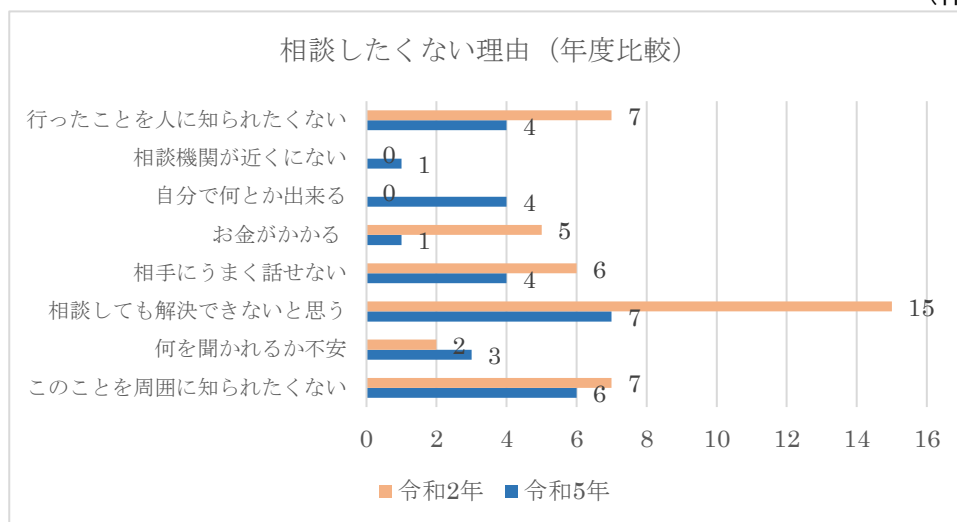


## 8－2）相談したくない理由（複数回答）

相談したくない理由は多い順に「相談しても解決できないと思う」7人、「このことを周囲に知られたくない」6人、「相手にうまく話せない」「自分で何とかできる」「行ったことを人に知られたくない」4人と続く。そのうち「相談しても解決できないと思う」「行ったことを人に知られたくない」の回答が初回調査と比べると減っており、その要因として、50歳以上者の減少と若年者の増加、そしてひきこもり相談体制の整備等が考えられる。

【図表 21 相談したくない理由】（複数回答）

（件）

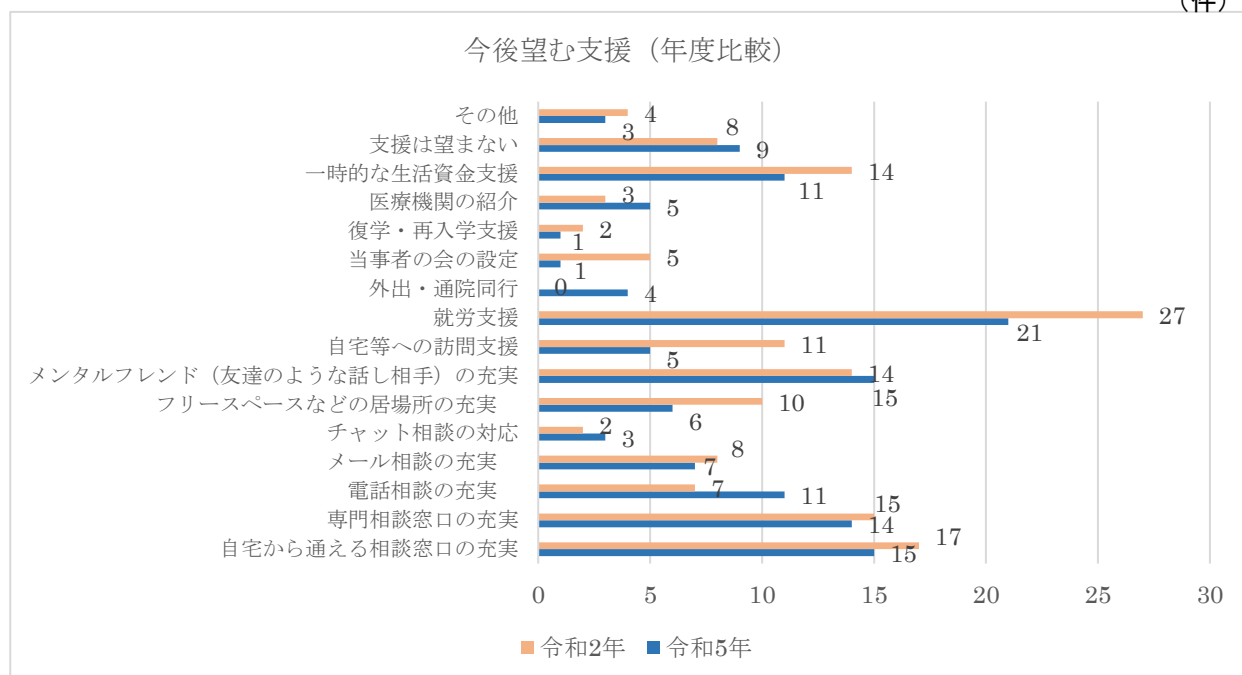


## 9）今後望む支援（複数回答）

今後望む支援は、多い順に「就労支援」が21件、「メンタルフレンドの充実」「自宅から通える相談窓口の充実」が15件、「専門相談窓口の充実」が14件、「電話相談の充実」「一時的な生活資金支援」が11件となっている。一方、「支援は望まない」は3件であった。

【図表 22 今後望む支援】（複数回答）

（件）

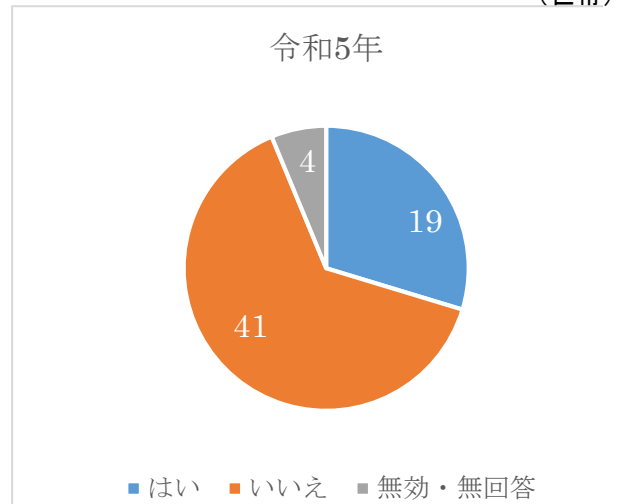


## 10) 町や相談機関からの連絡の可否

町や相談機関から連絡して良いかの問いに「はい」の回答があったのは19世帯であり、連絡先の情報記載がある。

【図表 23 連絡の可否】

(世帯)



## 5. まとめ

### (1) ひきこもりの現状と課題

#### 1) ひきこもり状態にある人の数・割合について

- ・当町の15歳から64歳のひきこもり者がいる世帯は64世帯であり、世帯あたりの割合は2.2%となった。ひきこもり状態にあると回答があった人数は68人であり、対象者数と回収率を勘案したひきこもり者の割合は1.1%程度となる。
- ・令和4年度内閣府調査結果によると、15歳～64歳の年齢層の2%余りにあたる人にひきこもりがみられる。これを本調査結果と比較すると、世帯あたりでは同程度であるが、対象人口あたりでは少ないことから、引き続き声をあげていない当事者の把握に務めていく必要がある。

#### 2) ひきこもり者の性・年齢の状況について

- ・ひきこもり状態にある人は男性に多く、約6割を占める。男性が約7割であった初回調査と比較すると減少しており、女性が増加している。
- ・年代別では、50歳以上の人が増加し、20歳代以下の人が増加している。特に、30歳代以下が2人に1人程度と多いことから、若い世代への支援の充実が必要である。

#### 3) ひきこもりの状態やきっかけ、抱く不安について

- ・ひきこもりの状態にある期間は「7年以上」が男女ともに多く、長期化している。そのなか、「家族以外に相談したことがない」世帯が4世帯に1世帯であり、家族で抱え込まないよう地域ぐるみで支えるしくみづくりが必要である。また、3年未満者も3人に1人と多く、早期からつながることのできるしくみづくりが必要である。
- ・ひきこもりのきっかけとして最も多いのが「仕事」であり、また、「不登校」と答えた人が増えている。こころの健康づくりや人権の尊重等への働きかけを職域や学校と一緒に進める必要がある。
- ・本人が抱く不安をみると「就労関係」が多く、就労支援への取り組みの充実が必要である。
- ・当事者の今後の相談希望先として、無料または医療や心理の専門職をあげる人が多いことから、公的な相談窓口等の充実と啓発に努める必要がある。

### (2) ひきこもり対策の重点視点と施策

これらを踏まえて、今後のひきこもり対策における重点支援と施策を次のとおりとする。

- ・若年者及び女性への支援の充実強化
- ・声をあげていない人の把握と適時に支援を提供できる体制づくり
- ・ひきこもり者の孤立と家族の抱え込みの防止
- ・気軽に相談できる相談窓口の継続実施（オンライン化含む）
- ・不登校状態にある児童生徒への継続した支援体制づくり
- ・就労支援の充実と居心地のいい居場所づくりの推進（インターネット活用含む）
- ・地域ネットワークの強化による気づき、つながり、支え合う体制づくりの推進

## 6. おわりに

誰もが生きづらさを抱え孤立に陥る可能性を持つ社会の中で、ひきこもり当事者や家族が安心して受け止めてもらえる場所、理解してもらえる人が増えることは、孤立やひきこもりの長期化を防ぐことにつながる。本調査で「どこにも相談したことがない」と回答した世帯が初回調査と比べて半数程度に減少したことは、これまでのひきこもり対策の成果の一つと考える。

前述したように、新型コロナウイルス感染症の影響による人々の交流の希薄化は、本調査でみられた若年者や女性のひきこもり者増加の要因のひとつと考えられ、つながり、支え合う地域共生社会実現に向けた取り組み推進が必要となる。

本町では今後、つながり・支え合いのある地域共生社会の実現をめざして重層的支援体制整備（以下「重層的支援体制」）を進めていく。この重層的支援体制は、多様な分野が積極的にアウトリーチをし、支援を要する人を早期に発見するしくみも作ることから、本調査においてひきこもりの定義を満たさない「6カ月未満者」の把握も行ってきた。その実数は7世帯 8人であり、この短期間者情報も本調査結果と合わせていかし、重層的支援体制の中で実効性あるひきこもり対策を推進していく。

## 令和5年度ひきこもりに関するアンケート調査

### この調査において

- 「あなた」とは、この調査の対象となる 15 歳から 64 歳までの方をいいます。
- 「ひきこもり」とは、仕事や学校に行かず、家族以外の人との交流をほとんどせずに、6 か月以上続けて家又は部屋等にひきこもっている状態をいいます。  
※買い物や趣味など、他者と関わらない形で外出している場合を含みます。

あなたやあなたの周りの状況について、お尋ねします。

(問1) ご家族の中に「ひきこもり」の状態にあてはまる人がいますか？

1 いる

3 いない

2 いるが、6 か月に満たない



以上でアンケートは終わりです。  
若者の様々な課題や町の取り組み等について、ご  
意見等お声をお寄せください。



ご協力ありがとうございました。

以下、(問1)で「1」又は「2」を選択した方のみ次の設問にお進みください。

(問2) その方とあなたの続柄をお答えください

- |        |           |           |       |       |
|--------|-----------|-----------|-------|-------|
| 1 本人   | 2 配偶者     | 3 父母      | 4 子ども | 5 祖父母 |
| 6 兄弟姉妹 | 7 子どもの配偶者 | 8 その他 ( ) |       |       |

(問3) その方の年代と性別、人数をお答えください。(令和5年4月1日現在の年齢)

- |         |          |          |
|---------|----------|----------|
| 1 10代   | 男性 ( ) 人 | 女性 ( ) 人 |
| 2 20代   | 男性 ( ) 人 | 女性 ( ) 人 |
| 3 30代   | 男性 ( ) 人 | 女性 ( ) 人 |
| 4 40代   | 男性 ( ) 人 | 女性 ( ) 人 |
| 5 50代以上 | 男性 ( ) 人 | 女性 ( ) 人 |

(問4) その方の交流の状況についてお答えください。



- 1 家族ともほとんど会話がな
- 2 家族と会話はするが、家族以外の人と交流がない
- 3 人と会うことはほとんどないが、SNS、インターネット等を通じて人と交流している
- 4 その他（ ）

(問5) その方の外出の状況についてお答えください。

- 1 ほとんど外出しない
- 2 家族と一緒に外出することはある(一人では出られない)
- 3 一人で買い物に出かけることはある(日常生活に必要なことのみ)
- 4 一人で趣味や遊ぶために外出することはある(社会的な関わりを持てる)

(問6) その状態になった期間についてお答えください。(現在までの期間で)

- |            |        |        |
|------------|--------|--------|
| 1 6か月未満    | 男性( )人 | 女性( )人 |
| 2 6か月～1年未満 | 男性( )人 | 女性( )人 |
| 3 1～3年未満   | 男性( )人 | 女性( )人 |
| 4 3～5年未満   | 男性( )人 | 女性( )人 |
| 5 5～7年未満   | 男性( )人 | 女性( )人 |
| 6 7年以上     | 男性( )人 | 女性( )人 |
| 7 分からない    | 男性( )人 | 女性( )人 |

(問7) その状態になったきっかけは何ですか。(○はいくつでも可)

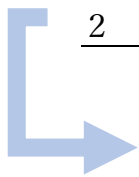
- |                |               |          |
|----------------|---------------|----------|
| 1 不登校(小学校・中学校) | 2 受験(高校・大学)   |          |
| 3 高校・大学生活      | 4 就職活動        |          |
| 5 仕事           | 6 人間関係(友人・家族) |          |
| 7 病気           | 8 妊娠          | 9 家族等の介護 |
| 10 その他( )      | 11 わからない      |          |

(問8) 現在あなたや家族が抱えている不安や危機感、将来の生活についてどのようなものがありますか。(○はいくつでも可)

- |             |                  |            |
|-------------|------------------|------------|
| 1 家族との関係    | 2 親の高齢化          | 3 家族の介護    |
| 4 友人や仲間との関係 | 5 家事や身の回りのこと     |            |
| 6 健康状態      | 7 収入や生活費など経済的なこと |            |
| 8 就職や仕事のこと  | 9 学業や学校のこと       | 10 結婚や恋愛問題 |
| 11 特にない     | 12 分からない         |            |
| 13 その他（     |                  | ）          |

(問 9) 今の状態について、家族以外に相談したことがありますか。

- |                   |                      |
|-------------------|----------------------|
| 1 相談したことがない       |                      |
| 2 <u>現在相談している</u> | 3 <u>以前相談したことがある</u> |



(補問 1) ①「現在相談している」または②「以前相談したことがある」を選んだ方にお聞きします。誰に相談しましたか。(○はいくつでも可)

- |                    |                |         |
|--------------------|----------------|---------|
| 1 友人・知人            | 2 親戚           | 3 学校の先生 |
| 4 病院のカウンセラー・精神科医   |                |         |
| 5 NPO などの民間の相談機関の人 | 6 市町村などの専門機関の人 |         |
| 7 その他(             |                | )       |

(問 10) 今の状態や今後のことについて、どのような支援機関なら、相談したいと思いますか。(○はいくつでも可)

- |                                |              |
|--------------------------------|--------------|
| 1 親身に聴いてくれる                    | 2 医学的な助言をくれる |
| 3 心理学の専門家がいる                   | 4 精神科医がいる    |
| 5 無料で相談できる                     | 6 SNSで相談できる  |
| 7 同じ悩みを持つ人と出会える                | 8 自宅に来てくれる   |
| 9 匿名で(自分の名前を知られずに)相談できる        | 10 自宅から近い    |
| 11 公的機関や医療の専門家ではない民間団体(NPO など) |              |
| 12 あてはまるものはない                  |              |
| 13 <u>どのような機関にも相談したくない</u>     |              |



補問 2 へ

(補問2) 相談したくないと思う理由は何ですか。(○はいくつでも可)

- |                   |              |
|-------------------|--------------|
| 1 このことを周囲に知られたくない | 2 何を聞かれるか不安  |
| 3 相談しても解決できないと思う  | 4 相手にうまく話せない |
| 5 お金がかかる          | 6 自分で何とか出来る  |
| 7 相談機関が近くにない      | 8 その他 ( )    |

(問 11) 今後、どのような支援を望まれますか。(○はいくつでも可)

- |                           |             |             |
|---------------------------|-------------|-------------|
| 1 自宅から通える相談窓口の充実          | 2 専門相談窓口の充実 |             |
| 3 電話相談の充実                 | 4 メール相談の充実  | 5 チャット相談の対応 |
| 6 フリースペースなどの居場所の充実        |             |             |
| 7 メンタルフレンド(友達のような話し相手)の充実 |             |             |
| 8 自宅等への訪問支援               | 9 就労支援      | 10 外出・通院同行  |
| 11 当事者の会の設定               | 12 復学・再入学支援 | 13 医療機関の紹介  |
| 14 一時的な生活資金支援             | 15 支援は望まない  |             |
| 16 その他 ( )                |             |             |

(問 12) 今後、ひきこもり状態にある人や家族への支援に力を入れてまいります。

町や相談機関から連絡を差し上げて良いですか。

- |             |       |
|-------------|-------|
| 1 <u>はい</u> | 2 いいえ |
|-------------|-------|



氏名：

電話番号：(日中連絡がつく連絡先)



自由意見

以上でアンケートは終了です。

ご記入いただいた調査票は、「提出用封筒」に入れて投函してください。

ご協力ありがとうございました。